

### 構造建築家 今川憲英 先生のご紹介

スペースデザイン科では、今年度後期授業より、構造建築家の今川憲英先生に、1年次の『構造建築』の講座をお願いしております。構造建築家というのはどのようなお仕事なのでしょう。神田神保町にある今川先生の事務所で、学生時代のお話や、構造に関する専門的なお話まで聞かせて頂きました。



今川先生の事務所は、全体が白で統一され、入口には構造物の模型やジョイントの実物がレイアウトされた開放的な空間でした。



約20人の所員が同時に各自2〜3件の物件を担当しており、週に1件のペースで竣工、年間50件余りの実績があるそうです。

### 構造建築家の仕事

今川先生は、広島県尾道市のご出身。高校時代、東京オリンピックの代々木室内プール建設を毎日のニュースで見、ダイナミックな構造建築物に興味を持たれたそうです。その構造設計を担当した坪井善勝先生に教わる為に日本大学に進学しました。

以降40年に渡り地震国の建築と構造デザインと、素材を生かす骨格の研究をしてこられた日本の第一人者で、これまで構造設計に関わった建築・構造物は2,200以上に上ります。横浜赤レンガ倉庫（エポキシジョイント使用／2010年度ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞）や、東京銀座資生堂ビル（制震ジョイント使用／2002年度東京建築賞）など、数多くの受賞をされています。

2009年度JIA建築大賞を受賞された、大船渡市市民文化会館・図書館 リアホールは、東日本大震災でも被害が無く、現在は避難所として使われているそうです。また、構造設計した「マイカル三田ポロロッカ」では、阪神大震災においてガラスも割れなかった実績があります。『日本のように地震国には独自の構造設計が必要。』と、繰り返しておっしゃっていたのが印象的でした。

### 建築、スペースデザインを志す人へのメッセージ

“建築に興味はあるけれど、数学が苦手”と言う学生も多いですが、今の時代は、分かりやすいビジュアルゲーム感覚で学べるコンピュータソフトもあるので、マウスを動かすことができれば大丈夫。今川先生の授業では、建築の力の流れや仕組みを体感的に楽しく学べる工夫がたくさんあるそうです。

『建築は骨（＝太い柱・梁）と筋肉（＝ワイヤー）の関係と同じ。貝殻の形や蜂の巣（ハニカム構造）、樹木の形などの自然物からも学ぶ事がたくさんある。建築以外にも、色々なことに興味持つことが重要。』とアドバイスも頂きました。先生は、一年の二十四節気を感じ川柳を読まれたり、香、華、茶道、狂言鑑賞など、様々な趣味をお持ちで、各分野にご友人も多く、会話や雑談から得られたヒントをお仕事に活かすこともあるそうです。

『今回の東日本大震災で、一段と建築物・構造物における構造設計の重要度が増しました。命を守る設計が出来る人材を育てることが、私の仕事』日本を代表する構造設計家（自称：外科医的建築家）と思えないフランクな雰囲気と語り口調の先生でした。